

INTERVIEW

目指すは「この職場ってココがいいよね」



INTERVIEW

目指すは「この職場ってココがいいよね」

今回の広報誌「TOKIWA」冬号では、城西国際大学 福祉総合学部 福祉総合学科 准教授 篠崎良勝先生にインタビューしました。

— 篠崎先生は大学で福祉や介護を研究しておられますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか？

大学院卒業後、初めて就職したのは民間のシンクタンクでした。そこで、市町村の介護保険事業計画などをサポートする仕事に携わり、その後、医療・福祉系の出版社に転職して、「介護に関する情報を家族に届けたい」という思いから“かいごの学校”という月刊誌を立ち上げ、編集長として介護に関する様々な情報を世の中に広める仕事に携わっていました。編集長として仕事をする傍ら、個人的には介護現場で働く方々の実態調査をしていた関係で、もっと調査研究を深堀したい」という思いから大学教員の公募にエントリーして、現在の仕事（大学教員）に就いています。

— これまでの研究成果の幾つかを紹介いただけますか？

私は、「介護職員の労働環境を整えることが、より良いサービス提供につながる」という考えのもとに研究を行っています。介護事故の実態調査、介護現場における医療行為の実態調査、さらには介護職員が受けるハラスメントの実態調査などを行ってきました。実態調査の主となる理由である、「実態調査をすることにより介護現場における課題が見え、その解決方法も実態と乖離することなく考えられる」という思いが私にあるからです。

— どんな研究をご専門としておられるのでしょうか？

私の専門は介護労働になります。言い換えれば、「介護サービスの質向上のためには、介護職員の労働環境の改善が必要である」という視点ですべての研究を行っています。具体的な調査は介護事故、医療行為、イメージ調査、ハラスメント、観察福祉の構築などです。

— どのような苦労がこれまでありましたか？

実態が明らかになり、解決方法が見えたとしても、一筋縄で解決できない実態があるということでしょうか。例えば、利用者からのハラスメントで苦しんでいる介護職員がいるとわかりながらも、研究レベルでは解決方法の提案までしかできない。そうになると、あとは施設に任せるしかなくなってしまうんです。自身で解決したい問題も解決策の提案までしかできないという点が苦労であり、悩みといったところでしょうか。

— どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

一言でいえば、介護職員さんが私の研修で仕事に対する前向きな気持ちに少しでもなってもらえた時でしょうか。介護現場の皆さんに研修でお会いした際、感想で「篠崎さんの研修に参加して、明日から頑張れます」「もう介護職はやめようと思っていましたけど、もう少し

頑張ってみたいと思います」「早く現場で介護をしたくなりました」という前向きな気持ちを聞けたときは、「私でもお役に立てたのかな」と思います。



城西国際大学 准教授
篠崎良勝 先生

— ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

一言でいえば、仕事はクールで真剣なのに、プライベートは一人の人間らしさを感じられる職員の集団ってところでしょうか（笑）。実は、私はときわ園さんで研修をさせていただいたことがあります。その際、講義前後のプライベートな時間は子どもの話をしたり、気になる映画の話をされていたりした皆さんが、研修となるとすべてを吸収しようとしている姿勢、目線、質問に「皆さん、超かっこいい」と感じました。

— ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

働く職員さんが、「自分の親や家族に利用させたい」「私の友人にもときわ園で働くことを勧めたい」という割合が年々上がっていくような施設であってほしいと思います。つまり、職場とは、労働者にとってはお金を稼ぐ場であるのは事実ですが、それ以外の部分で「この職場ってココがいいよね」と思える部分を一つずつ増やしていてもらいたいと思います。

篠崎先生、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

始めは小さなことから

新しい年を迎えましたが、皆様におかれましても、感染対策を万全にご健勝のことと存じます。オミクロン株に対する不安がありますが、コロナウイルス感染が小康状態となり、巷に少しだけ賑やかさが戻ってきたように感じます。

2021年も世界各地で自然災害が発生しましたが、特に地球温暖化との関係が大きく取り上げられ、世界中で環境問題に関心が高まっています。SDGsという言葉もよく耳にするようになりました。これは、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)のことを意味しています。日本ユニセフ協会のホームページでは「SDGsは、私たちみんなが、ひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示した、つまり、ナビのようなものです」と説明されていました。全部で17の目標が掲げら

れていて、世界中の全ての人々の共通の願い、希望が込められています。

SDGsの中に「気候変動に具体的な対策を」という目標が掲げられています。最近では、特に若者が環境問題に関心を示しています。自分さえ良ければそれで良いという風潮の中で、若い人が自分のことばかり考えずに、他者のことにも関心を払って行動することはとても良いことだと思います。ときわ園でも環境保護のためにできることから行っていきたいと考え、コンポストを設置いたしました。給食で出る残滓をゴミとして捨てるのではなく、コン

ポストに入れて肥料にし、庭園の畑などに活用しています。これによりゴミの量が減り、リサイクルの促進にもつながっています。大きなことはすぐにはできませんが、自分たちにできる小さなことから始めていくことが大切だと感じています。他にもできることがないか、引き続き模索していきたいと考えています。

コロナウイルスの心配はまだ無くなっていませんが、自由に家族や友人と会ったり、出かけたりできる日が一日も早く訪れることを願っております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



富士山/理事長撮影

生活相談部門が始動

生活相談部門 主任
月川 健太郎



10月1日より生活相談部門ができました。ときわ園には3名の相談員兼ケアマネジャーが働いております。従来型は高本相談員、ユニット型は澤本相談員、短期入所生活介護は月川が担当しております。

私たちの主な仕事は、『日々の生活に繋がる相談や地域に根ざした活動』です。ご利用者の相談事を伺い、ご家族への相談、入所希望者様の受け入れや入所の調整を行っています。他にも外部研修・園内研修の参加など、研修事業にも参画しております。今回は幅広い活動をする中、より密

な連携ができるよう、施設長の指導の下、生活相談部門を立ち上げました。介護・看護・機能訓練とより良い連携体制を築くことはもちろん、地域の病院・老人保健施設や特別養護老人ホーム、居宅支援事業所などと連携を深

め、ときわ園の利用を考えている方が今後の方向性を見定めることができるようにいたします。現在入居されているご利用者が安心して生活され、ときわ園に来てよかったと思っていただける施設を目指していきたいと思ひます。



生活相談部門スタッフ

デイサービスの活動

広大な敷地を有する当施設では、他者との交流を交えた歩行訓練が盛んに行われており和気藹々と互いに励まし合いながら屋外歩行に取り組まれています。花壇や畑でも各々が知識を出し合い冬支度をしております。フロアを飾る冬の飾りも皆様が作成に没頭しております。また気の合うお仲間と共に、ゲームに取り組まれる方で賑わっております。



ニンニク栽培の準備



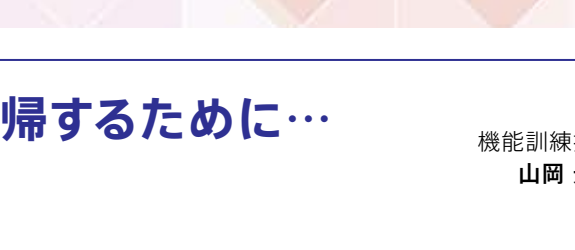
仲の良いお二人の散歩



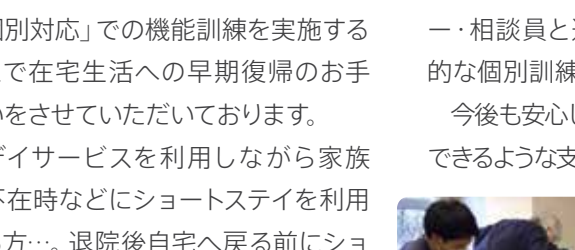
庭の散策



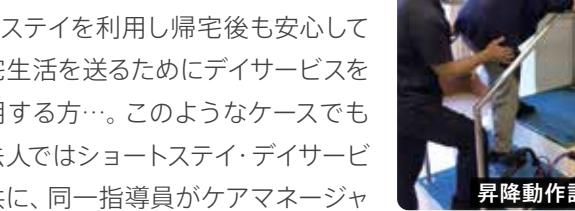
ニンニク苗に水やり



エンドウの種蒔き



赤カブの収穫



畑の栽培計画中



作業後の一服



収穫物を丁寧に洗って…



テラスの清掃活動



棒倒しゲームに集中



屋外歩行訓練中の一コマ



冬のカレンダー作成



ジェンガで勝負！



紅葉観賞



園庭のベンチで一休み



花壇のお花見



秋空の下で屋外歩行



花の観賞散歩



ドングリ採集

安心して在宅生活へ復帰するために…

機能訓練指導員
山岡 光太郎



当法人では長期入所・デイサービスの他に「ショートステイ」のサービス提供も行っており、数日から1ヵ月程度の宿泊が可能です。昨今多くの介護施設にて対応している「ショートステイ」ですが、個別機能訓練を実施している施設は少ないです。しかし高齢者の場合、短期間であっても活動量が低下すると身体機能が低下してしまうのが現状であり、在宅への復帰が困難となってしまうケースもあります。そこで当施設では

「個別対応」での機能訓練を実施することで在宅生活への早期復帰のお手伝いをさせていただいております。

デイサービスを利用しながら家族の不在時などにショートステイを利用する方…。退院後自宅へ戻る前にショートステイを利用し帰宅後も安心して在宅生活を送るためにデイサービスを利用する方…。このようなケースでも当法人ではショートステイ・デイサービス共に、同一指導員がケアマネージャ

ー・相談員と連携を取り、円滑に継続的な個別訓練の実施が可能です。

今後も安心して在宅生活を送ることができるような支援に取り組んでいきます。



昇降動作訓練

可動域訓練

令和3年度入国のEPAベトナム人介護福祉士候補生をご紹介します！

事務長
石本 春樹



ヴォー・グエン・ザップという人物をご存じでしょうか。ベトナム近現代史において祖国を植民地から解放、その後の南北統一にも大きな貢献を果たした救国の英雄です。彼は、孫子やナポレオン、「知恵の七柱」を著したT・E・ロレンスに多大な影響を受け、その英知を祖国独立という偉業に結実させました。

「知恵は家を作り、七つの柱を立てる。」中東の古文書が命名由来の

書、「知恵の七柱」を愛したザップ。彼を輩出した地からときわ園は、2名の候補生を迎えることとなりました。11月15日に着任したその2人の名は、ダット職員とフエン職員です。ダット職員は、2度目の滞日で、前回以上の活躍を期する男性です。フエン職員は先進技術と知見を本国に持ち帰ろうという意欲に溢れた女性です。

ときわ園はこの2人を、7人の先輩同様に立派な介護福祉士に育て、将

来、ザップのように、多くの柱を立てる人物となるよう支援してまいります。



ダット職員

フエン職員

デイサービスセンターこもれびの強みはこれです！

デイサービスセンターこもれび
生活相談員
近藤 杏奈



こもれびの強みは、『自立支援』・『機能訓練』・『温かさ』です。

『自立支援』

自立支援では、病気や加齢によって介護が必要になった方の自主性を尊重し、自立した生活ができるように支援を行っています。自立支援を進めることでご利用者やご家族に多くのメリットがもたらされます。これまでの介護は「お世話をする介護」でした。ゆっくりであれば自力で洋服を脱ぐ・着ることができる方に対して、時間内に入浴を終えられるようにと職員が介助することで、手助けし過ぎてしまっていることがありました。

お世話をし過ぎてしまうと、ご利用者の介助に対する依存度が高まるだけでなく、できていたことができなくなってしまうなど、身体機能を低下させ自立を妨げてしまうことに繋がります。そのようにならないために、何でもお世話をするのではなく「自分でできることはやっていただき、できないことだけを手助けする」という方法で、日常生活の自立を目指しています。

こもれびでは、入浴時の着脱・洗身・洗髪をご自身で行うことができる方は行っただき、できないところは職員にてお手伝いさせていただいています。さらに、他のご利用者と協力し、食事前のテーブルのアルコール消毒、おしぼり配り、手指消毒、食事の下膳やコップ洗いなど、職員の手伝いを自主的に行ってくださる方もいます。ご利用者と共に行うことで職員の負担も軽減し、「とても助かりました。ありがとうございます。」という感謝の言葉や笑顔が多くなることで、“こもれびに来て良かった、利用して良かった”に繋がればと思います。



コップ洗い



洗濯物たたみ

『機能訓練』

ご利用者一人一人に合わせた計画書をもとに個別機能訓練を行います。機能訓練を受けたことで筋力低下予防や筋力維持・向上を図り、ご利用者の中にはできなかったことができるようになった方もおり、共に喜びを感じています。敷地の広い園庭での歩行訓練もあり、季節を感じさせる野鳥や花などを楽しみながら行っています。個別での対応なので、柔道整復師・看護師に機能面での相談が行え、安心して在宅生活が送れるよう心のケアを含め支援を行っています。



広い庭園での歩行訓練

『温かさ』

こもれびは、職員間やご利用者同士でとても仲が良くアットホーム感が満ちあふれています。それぞれ個性豊かで、何でもお話ができ笑顔や笑い声があふれる温かみのある第二の家の様なデイサービスです。職員間の助け合いはもちろん、できること・できないことをお互いに理解しつつ、ご利用者同士で助け合い思いやりを示し合います。ご家族とも送迎時や連絡帳にてコミュニケーションを図り、介護での悩みごと相談も受けております。

私は他のデイサービスでの仕事経験はありませんが、こもれびではご家族を含め職員やご利用者は皆とても優しく、沢山のデイサービスがある中で温かいデイサービスに出会えたことをとても嬉しく思います。



温かな雰囲気でのレクリエーション

温かみのあるデイサービスセンターこもれびの様子は、ときわ園ホームページや連絡帳などに掲載していますので、是非ご覧ください！

東京大学沼田准教授来園！ ～BOSSを使った訓練の様子～

業務サポート部門 リーダー
田村 知之



ときわ園では、災害時にご利用者の安全・健康を第一に考えて迅速に対応が出来るよう、電子的媒体を使用する災害対策マニュアルを作成しています。それは、災害対応工程管理システム「BOSS (ボス)」というものです(本誌vol.201やvol.205でも紹介)。

10月29日金曜日に、災害に対して幅広い研究をしておられる東京大学生産技術研究所の沼田宗純准教授

と学生の方々、BOSSのシステム開発を行っている株式会社UTies (ユータイズ) にもご参加いただき、主に事務所職員が中心となって、実際にBOSSを使用して、災害で停電が発生した場合の訓練を行いました。

BOSSの最大の利点は、行うべき作業について写真等の視覚的な情報を増やすことができるため災害時の対応に不慣れな職員でも対応しやす

くなるということ、そして全体の作業工程の把握が容易なため次の作業への移行を迅速に行うことができることなどです。

今回の訓練は、沼田准教授の研究論文「高齢者施設におけるBOSSを活用した災害対応検証」に活用されました。今後もBOSSを活用して様々な場面における対応を訓練し、様々な災害に対する備えを強化していきます。



タブレットでBOSSを見ながら作業指示を出している



訓練の振り返りを行う沼田准教授(右端)



来園した東京大学関係者と共に

宇宙飛行士も高齢化

施設長
酒井 章年



2021年10月、90歳の男性が宇宙飛行を行いました。SFファンならお馴染みの、スタートレックに登場したエンタープライズ号カーク船長役の俳優ウィリアム・シャトナーさんです。今年7月にも82歳の女性ウォリー・ファンクさんが宇宙飛行を成し遂げています。それ以前には、1998年にスペースシャトルで77歳のジョン・グレンさんが宇宙飛行を成功させています。時代と共に宇宙飛行士の高齢化が進んでいます。これらの事例は、日本で後期高齢者に位置付けられている人であっても大きな可能性があるという

ことを示しています。

国際宇宙ステーションISSに滞在する宇宙飛行士も高齢化しています。50代、60代の宇宙飛行士はごく当たり前、現に日本のJAXAの現役宇宙飛行士の平均年齢は52歳です。現在、61歳のNASAの宇宙飛行士がISSに滞在しています。今後も民間宇宙船に搭乗し60代(70代もいる)の宇宙飛行士たちが続々とISSに向かいます。

もちろん高齢者のだれもが宇宙飛行を行えるわけではありません。しかし、このようなニュースは、高齢であ

っても、まだまだやれる、さらに何かできるという前向きな気持ちを生じさせるのではないのでしょうか。高齢化は日本の社会だけではありません。宇宙飛行をはじめ様々な分野でも生じています。では、たとえ高齢であっても、夢と希望をもち励まし合いながら邁進してまいりましょう！



宇宙遊泳中の宇宙飛行士

活動ログ

10/10 初の拠点的福祉避難所設置訓練

昭和55年に第1回六都県市合同防災訓練が実施され、以来、毎年続き、今年は第42回九都県市合同防災訓練が行われました。(九都県市とは、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市の9つの自治体です。)

千葉市では10月10日に、蘇我スポーツ公園を主会場にした訓練が行われ、小学校などのいくつかの拠点でも避難所開設訓練が行われました。ときわ園も拠点的福祉避難所(避難行動要支援者を受け入

れる施設)に登録していますので、平山小学校での訓練に参加してきました。地元の自治会による避難所の運営方法や、福祉避難所に受入れ要請するまでの流れを確認し、段ボールベッドやエアーマットの設



各避難所に備蓄されている物品の一部

置方法について学びました。“うまくいかないことを体験する”良い機会になりました。



エアーマットはストローで膨ませます



段ボールベッドはしっかりしています

10/20 運動会で大ハッスル!!

運動の秋ということで、10月20日に新館3階では運動会を行いました。釣り、的当て、フリーキックの3つに分けて競技を行い、コロナ禍の影響もあってか日頃のストレスを発散して、スポーツを通してご利用者の一生懸命に体を動かす姿が見受けられました。久しぶりに体を動かした利用者の皆様、「楽しかったね、やっぱり体を動かすのは気持ちがいいや」「あの競技が楽しかったね、貰ったおもちゃも大切にしくちゃ」など閉会した後も口

々に会話をしている姿を見受けられました。ときわ園でも参加者全員が金メダルの東京オリンピックに負けないくらいの運動会ができました。



フリーキック



的当て



釣り

10月末 「千葉市簡易陰圧装置の設置に係る補助事業」による陰圧装置導入

コロナウイルス等の感染症を避けるためのBCP(※)対策が必要な中で、10月末に「千葉市簡易陰圧装置の設置に係る補助事業」による補助金を使用して簡易型陰圧装置を購入、導入しました。

陰圧装置とは、装置を含めた密閉空間の空気を適切に処理した後に排気し、部屋を陰圧(負圧)にすることにより、コロ

ナウイルスやインフルエンザ等様々なウイルスの拡大を防ぐ装置です。

もちろん使う場面が生じないことが最善ですが、仮に感染者が確認された際の園内の感染症拡大を防ぐために、安心して暮らしていただくための環境づくりをまた一歩進めることができました。

※事業継続計画



組み立てた陰圧装置

編集後記

大リーグの大谷翔平選手が高校一年生の時に書いたマンガラチャート(目標達成シート)が目立つことがあります。達成したい一つの大きな目標を達成するための様々な具体的な行動をまとめたものです。その中に「運」があります。大谷選手は「運」を、いわゆる運頼みではなく、大切なことを積み重ねることで達成できると考えていたようです。「あいさつ・ゴミ拾い・部屋そうじ・道具を大切に使う・審判さんへの態度・プラス思考・応援される人間になる・本を読む」ことが「運」を引き寄せる、と考えていました。実際にそれらの行動が話題になっていましたね。大きなことを成し遂げるには、まず身近な基本的なことをきちんと行うことが大切だということを、今年の活躍によって証明しました。

